

自己評価表

愛媛県立八幡浜高等学校(全日制)

学校番号(36)

教育方針	1	校訓(五綱領:勉学 礼儀 健康 融和 奉仕)を基調として、国家社会の有為な形成者としての資質を養う。	努力目標	1	「桜梅桃李」一誇りと自信を持ち、何事にも積極的にチャレンジする一	
	2	社会の変化に柔軟に対応し、自らの進路を切り開く確かな学力を育成する。		2	目指す学校像	○ 文武両道の進学校
	3	個性を尊重し、国際的視野を持った心豊かな人間を育成する。		3	目指す生徒像	○ 自己探求・自己理解に努め、自己の可能性を切り開く生徒 ○ 次世代のリーダーになり得る生徒 ○ 学校・家庭・地域の一員としての自らの役割と責任を自覚し、地域に貢献できる生徒
				3	教職員努力目標	○ 生徒の可能性の追求と適切な学習・進路・生徒指導の実践 ○ 教育公務員としての資質の向上と意識改革 ○ 生徒・保護者、地域社会から信頼される教職員

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	・生徒や保護者、地域の期待に応える教育の推進	・多様な進路に応じた教育課程の編成 ・授業評価の実施及び検証	B	・学校評価アンケート結果をみると、生徒、保護者は概ね良好である。教員も良好ではあるが問題意識も併せ持っており、今後につながっていくと思われる。 ・分析及び考察については目標管理シートに反映させ、各個人によって深めている。	・新学習指導要領の移行期間に入り、2022年度完全実施に向けて、生徒、保護者及び地域の期待、そして特色ある学校づくりの観点も踏まえて、より良い教育課程の編成を目指す。
	・個々の教員の指導力向上	・相互参観授業への参加1人3回以上、研究協議の工夫・改善 ・一般公開授業への参加1人1校以上、校外研修会への参加者前年度比120%以上	C	・相互参観授業への参加については1回～7回と個人差があった。研究協議の工夫・改善についてはワークショップ型の研究協議を取り入れる教科もあった。 ・一般公開授業への参加についてはほとんどなかった。校外研修会への参加者は前年並みにとどまった。	・図書研修課員が、ワークショップ型研究協議の効果を啓発するとともに、ワークショップのファシリテーターを率先垂範する。 ・研修会参加後の参加報告を効果的かつ効率的に実施することで学びを共有し、教員の研修会参加への意欲を高める。
生徒指導	・生徒の規範意識の向上と育成	・登下校時の交通事故0件 ・みだしなみ再指導者(各回5名以内) ・生徒会活動や学校行事に主体的に取り組む生徒100%	C	・2月末現在で8件の自転車事故が発生した。昨年と比べ2件の減少であった。 ・6回のみだしなみ指導で79名を再指導した。平均で13名であった。 ・学校評価アンケート調査結果から、主体的な活動が「あまりできてない」「できてない」とする生徒が各学年2～3割程度存在している。	・新たに4月下旬に自転車通学生一括指導を年間行事として入れた。交通安全及びヘルメットの顎ひもをしっかりとは締める指導を実施したい。 ・学期初めの再指導者が多いので、始業式前の補習や校内模試等でみだしなみ等について連絡をする。 ・生徒会活動や学校行事がマンネリ化しないよう、毎年1つは新しい取組に挑戦させる。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
進路指導	・望ましい職業観・勤労観の養成と学問研究に対する意欲の向上	・就職指導及び職場体験学習(インターンシップ)の充実 ・効果的な進路情報の提供及び個別指導(教科、小論文及び面接)の充実	B	・インターンシップは、地域及び関係機関の方々の協力により効果的に実施できており、年々充実していると思われる。 ・学校評価アンケートから進路情報の生徒・保護者に対しての提供はできつつある。「土曜補習や模試」の有用性については、十分な検討が必要な時期に来ていると思われる。	・生徒・保護者のニーズを調査しながら、本校ホームページを利用して進路情報の発信を行うなど、新たな手立てを講じたい。 ・本校の進路指導の在り方について、生徒の現状を踏まえた方向性を十分に検討・協議し、協心戮力の体制を構築したい。
健康・環境	・心身共に健康な身体づくりを行うための自己管理能力の養成	・健康診断の事後指導と自己の健康状態の的確な把握 ・校務処理の効率化による働き方改革の推進 ・防災訓練の実施(各学期1回)	B	・呼び出し等の指導により2次健診の受診率が高いが、学校評価アンケート調査結果から、健康診断の結果を健康管理に役立てている生徒は減少傾向にある。 ・7月より月1回、早く帰ろうDayを設定し、18時の退勤を意識した取組ができた。 ・様々な想定の下での年3回の防災避難訓練により安全意識の向上を図ることができた。	・検査結果を健康管理に役立てられるように結果報告書の判定欄に報告コメントを入れ、自発的な自己管理に役立たせたい。 ・早く帰ろうDayを月2回設定する。 ・防災避難訓練の在り方を工夫して、一層の防災意識の向上に努める。
図書・情報	・読書活動の充実 ・情報発信とセキュリティの充実 ・保護者への情報提供	・読書記録の推進(ホームルームノートとの連携)、1人年間10冊 ・読書環境の整備、委員会活動の充実 ・図書室を利用したことのない生徒・教員0人 ・ホームページの適切な更新(1日当たり1000件以上のアクセス数) ・愛媛県立学校情報セキュリティポリシーの遵守と実施手順の作成及び遵守 ・「PTA月報」の発行(月間1回)各研修会の広報とPTA活動の報告 ・「PTA会報」の発行(年間3回)生徒の活動の紹介	C B A	・2月末現在で、読書量は生徒1人あたり7.7冊である。読書記録をつけている生徒は、39人と少ない。 ・生徒図書委員会が精力的に活動し、古い本を整理したため、図書室内の整備は充実してきている。 ・2月末現在で、図書室の未利用者は、生徒0人、教員33人である。 ・随時更新することができた。1日平均アクセス数は約1800件である。 ・windows update等セキュリティ対策を確実に行った。また、実施基準(具体的な手続、手順、方法を定める規定)を作成することができた。 ・「PTA月報」、「PTA会報」とも充実した内容で予定通り発行することができた。	・読書の意義を再確認してもらい、各教科、ホームルームでの図書室利用を呼び掛け、読書啓発活動に努める。 ・生徒からの新刊本の購入希望に沿えるよう努力する。 ・各課のホームページ作成委員と連携し、更に迅速な更新に努める。 ・本校の実態に合った実施基準の見直しを行う。 ・来年度も保護者や先生方の協力で、「PTA月報」及び「PTA会報」を一層充実させたい。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
人権・同和教育	・「部落差別解消推進法」の具現化	・人権・同和教育ホームルーム活動の充実 ・人権委員会活動の充実 ・人権・同和教育研修会の充実	B	・人権・同和教育訪問では担任の先生方のすばらしい取組が実践された。 ・全校生徒の人権意識向上のため、全校集会における報告や「人権だより」の作成に主体的に取り組んだ。 ・校内研修や「人権・同和教育課だより」を通じて、最新の情報を提供し、人権意識の向上に努めた。	・歴史学習を中心に3か年のホームルーム活動の計画の見直しを行う。 ・フィールドワークなどを通して、主体的に行動することのできる生徒を育成する。 ・年間を通じて情報提供できるように取り組む。
学年	1学年 ・主体性を持って行動できる生徒の育成	・ <u>基本的な生活習慣の確立</u> ・文武両道の実現～家庭学習時間の確保 ・自己理解を深める進路指導の充実	A	・登下校や授業、集団行動を通して生活習慣の確立ができた。 ・学業と部活動の両立に対する意識が高まった。 ・総合的な学習の時間、講演会や個人面談など、様々な形態で充実した進路指導を行った。	・家庭と学校との連携を密にし、個々に応じた対応を一層充実させたい。 ・予習・復習の習慣化を徹底し、家庭学習に対する意識を高めさせたい。 ・具体的な目標を立てさせ、進路実現に向けて個別に対応していきたい。
	2学年 ・進路目標の明確化と文武両道の実践	・ <u>生徒一人一人の進路目標を明確にするための面接や情報提供の充実</u> ・ <u>学習時間の確保及び学習意欲向上のためのクラス運営と教科指導の在り方についての研究・実践</u> ・ <u>各種活動への積極的な参加の促進及び健全な人間性の育成</u>	B	・総合的な学習の時間や講話等、進路指導課と協力しながら進路情報の提供や意識付けを行うことにより、進路意識が高まった。 ・部活動と学習の両立や家庭学習時間の確保のため、調査や日々の生活態度に関して細目にわたり指導した。また、落ち込みのある教科に対しての指導を工夫することにより、成果が見られた。 ・学校生活の様々な場面で中心となって活躍する機会が多く、判断力がつきリーダー的役割を果たす生徒、役割を見つけ協力する生徒が見られた。	・進路実現に向けて個々の生徒の実態を把握し、一人一人が自覚を持ち、目標に向かって最後まであきらめないで取り組むことができるように指導していく。 ・理解力の差が大きくなっている現状を踏まえ、基礎学力の定着や苦手教科を作らないための工夫をしたい。 ・学校生活や地域のボランティア活動などの様々な場面での活躍や成長の機会を大切にするとともに、教員間で情報を提供しあえるような時間と機会を作る。
	3学年 ・YAWATAHAMA PRIDE ―誇りを胸に、夢に向かって前進する―	・進学、就職内定率100%及び生徒の適性を踏まえた進路の実現 ・学校を牽引するリーダーの育成 ・凡事徹底	A	・多くの生徒が希望の進路に進み、進学・就職ともにほぼ100%に達しているが、なかには第一志望ではない生徒もあり、悔やまれるところである。 ・部活動や体育祭や文化祭等、多くの学校行事などで、下級生を牽引する場面が随所に見られ、3年間の成長が感じられた。 ・どのような小さなことでも看過することなく、全力で取り組む姿が見られた。このような小さな積み重ねが、大きな成果を生むということを学ばせることができた。	・一定の成果は上がったが、さらに上を目指すことを怠らず、今後も指導体制の強化を図りたい。 ・学習だけでは得られない人間同士のつながりや、社会へ出てからの協調性・コミュニケーション能力の育成を、学校全体の取組として今後も継続して行いたい。 ・3年間を通して生徒たちに何を軸として何を学ばせるべきか、学年や学校全体で統一した意識をもって取り組んでいきたい。